

2020年1月11日新年山行に参加して

辛 眞談

今回、縁あって日本山岳会埼玉支部に入会した辛と申します。日本人の夫との結婚を機に来日して約14年になります。私は子供の頃、体が弱かったこともあり、田舎の祖父母の家で幼少期を過ごしていました。そこは、小さな山間にある村で、様々な草木に囲まれた豊かな環境でした。ゆっくりとした生活を過ごしながら、少しずつ健康も改善し元気になっていきました。

現在は都内で生活しておりますが、便利さを感じるとともに、目まぐるしく変わっていく環境に、少し疲れてきたなと感じることも増え、子供の頃に過ごした田舎の生活を思い出すことが多くなりました。そうしたところ、テレビで登山の番組に触れる機会があり、一念発起、登山を始めてみようと思立ちました。登山を始めたばかりの2年ほど前になりますが、その日も登山ガイドだけを頼りに登山に出掛けた時のことです。途中、登山口がわからず迷っていたところに、たまたま登山にいらっしゃった1人の女性から声を掛けられました。それほど長い時間ではありませんでしたが、登山のことについて色々お話をお聞きすることができ、きちんとした知識を身につけて登山を楽しむことの大切さについてあらためて実感させられました。その時にお互いの連絡先を交換したことが、幸いにも日本山岳会の入会に繋がりました。

さて、日本山岳会埼玉支部に入会して最初の登山は、ユガテから顔振峠までの約5時間のコースでした。初参加で、初対面の方々も多く、最初は少し緊張気味でしたが、お願いされた集金役をこなしながら、1人1人ご挨拶をさせていただくことができ、出発する頃には自然とリラックスした気持ちになっていました。登山の安全祈願をした吾那神社の後方にある登山口に入ると、まず迎えてくれたのは野イチゴでした。さらに登っていくと、橋本山から秩父の山々が遠くに見えてきました。その景観を楽しむ余裕もないまま進



んで行くと、少し汗ばんできたので上着を脱いだところ、山風で一気に体が冷えてしまいました。冷えた体温が中々上がらないまま、しばらく歩いていると、開けたユガテの集落に到着しました。日当たりの良いところでランチを済ませた後に、民家の間の手作りの階段を上がると、もうすぐ満開を迎えるロウバイの花の香が

鼻先をくすぐってきました。ユガテを出発して林道を横切り、エビガ坂稜線に出た十二曲りでは、木の根っこが剥き出しの急坂がアップタウンを繰り返します。越上山分岐の坂で

は、樹林の間から乾いた日差しが斜めに射す風景が楽しめ、不思議な神々しさに包まれた雰囲気を感じていました。諏訪神社から車道を歩いていくと顔振峠に到着しました。最初に見えた三軒の茶屋、峠から見える西側の山々は、まるで墨のにじみ濃淡で描いた世界のようなものでした。さらに摩利支天の狛犬前を通過して峠をしばらく降りると、湿気の含んだ空気に包まれて川のせせらぎが聴こえてきました。足元が重く、日も沈み空気がひんやりとしてきた頃に吾野駅に到着しました。



今回の登山では、寒さ対策と体温調整がうまく対応できていなかったこと、それから登山をするための体力づくりの大切さについてもあらためて実感させられました。最後に、これからも健康で楽しく、そして安全に登山を続けていきたいと思っています。